

## 三保松原の景観改善を考えるシンポジウムの開催結果概要

### 1. 概要

- ・ 開催日時 平成 26 年 2 月 23 日（日）14 時～16 時 30 分
  - ・ 会場 清水テルサ（静岡市東部勤労者福祉センター）
  - ・ 参加者 約 300 名
  - ・ 内容
    - 講演 「文化的景観としての三保松原」  
東京大学先端科学技術研究センター所長、日本イコモス国内委員会委員長  
西村幸夫氏
    - 講演 「清水海岸（三保地区）の成り立ちと保全」  
土木研究センター常務理事なぎさ総合研究室長 日本大学理工学部客員教授  
宇多高明氏
    - パネルディスカッション
      - ・ テーマ「富士山世界文化遺産の構成資産として望ましい姿とは」  
「砂浜保全と景観をどう両立させるか」
- <メンバー>
- ・ コーディネーター：宇多高明氏
  - ・ パネラー：西村幸夫氏  
日本大学理工学部准教授 岡田智秀氏  
NPO 法人「三保の松原・羽衣村」事務局長 遠藤まゆみ氏  
静岡市地域活性化事業推進本部長 磯部正己  
静岡県交通基盤部長 長島郁夫

### 2. 主な発言内容

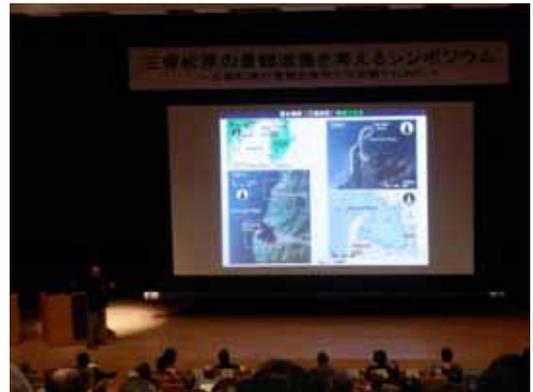
#### (1) 講演 「文化的景観としての三保松原」西村幸夫氏

- ・ 文化的な景観は、その風景を継続的に維持する努力を続けないと残せない。
- ・ 三保だけではなく、全国の海浜景観を改善するためのモデルになるような取り組みを。
- ・ 松林の問題、駐車場の景観を含めて考えなければいけない。
- ・ 地域全体が、文化的景観として富士山とどう繋がっているかを表現すること、繋がりを実感できる風景の育成が重要。



(2) 講演 「清水海岸（三保地区）の成り立ちと保全」宇多高明氏

- ・ 三保半島は自然の営力により、数千年の時間をかけて形成された地形である。
- ・ 人間の都合に合わせようとするのであれば、努力をし続けるしかない場所。
- ・ 最近安倍川での砂利採取を止めたため、再び土砂が出てき始めており、自然に元に戻ろうとしている。
- ・ 自然相手であるので、すぐに結果を求めずに着実な取り組みを進めるべきである。



(3) パネルディスカッション

1) テーマ 「富士山世界文化遺産の構成資産として望ましい姿とは」

- ・ 海岸だけではなく改めなければならない景観はたくさんある。世界遺産になったということは世界に対して保全する責任を負ったということ。（西村氏）
- ・ 人間活動が海に近づいた結果として、海岸に構造物が設置されているという事実を認識しなければならない。構造物を今すぐ無くすことは難しく、海岸保全と景観の両立策を考えていかなければならない。安易な修景は避けるべき。（岡田氏）
- ・ 世界遺産に登録されれば、大型バスの乗り入れや駐車場問題などが改善されると期待されたがそうはならなかった。（遠藤氏）
- ・ 三保松原が持つ本質的な価値を市民と共有し、訪れた方に理解していただくことが重要。景観の保全と活用の両面から地域資産を磨き上げたい。全体を統括する三保の全体計画を作成する。（磯部氏）
- ・ 情報を公開し、緊張感を持って取り組んで頂きたい。（宇多氏）
- ・ 松林、砂浜、富士山という昔の景観を取り戻すために、安倍川からの土砂がしっかり回復するよう取り組みを続ける。松枯れや電線地中化にも、市などと連携して取り組む。（長島氏）
- ・ 観光は、業者や行政任せではなく、地域でおもてなしをする仕組みが必要。（遠藤氏）



2) テーマ 「砂浜保全と景観をどう両立させるか」

- ・ 新しいL型突堤は、現在のL型突堤が持つ景観的な問題点（ブロック上の鉄筋、根固消波ブロックなど）を解決したものに。（岡田氏）
- ・ 技術会議では、三保オリジナルの工法をという意見もあった。（宇多氏）
- ・ 三保を発信源として日本の海岸のあり方を示していく。それが世界遺産になった意

義でもある。(西村氏)

- ・ 砂浜の回復は自然の営みそのものであり、無理をせず、我慢すべきところは我慢する。(宇多氏)
- ・ 大量の砂利採取による海岸へ土砂供給量の不足は、発展途上国でも起きようとしている。失敗の経験からアドバイスが可能である。(宇多氏)

### 3) 会場からの意見、質問

Q：学校単位で、三保松原の保全、景観のために何かできることはないか。

A：学校内で完結するのではなく、他の学校と交流し、良さを伝える努力をすると良い。そうすると学生ならではの発意や提案が出てくる。(岡田氏)

A：海岸のことを理解している人間が必要。先生でも、地元の人でも良いが、しっかり伝えることができる人間を育てることが重要。(宇多氏)

Q：セットバックについては、松林が重要で防潮林として活かしていく必要がある。土地利用と防災、景観、自然との共生の落としどころではないかと思うがどうか。

A：東北は高台移転という大規模なセットバックを行っている。事前復興という取り組みについて考えている。あらかじめ被災した後の移転用地を決めておくことがよいのではないか。(岡田氏)

Q：現在の状況で安定しているように思えないが、ヘッドランド工法は現地に適しているのか。

A：満点という訳ではない。砂をしっかり供給する努力が重要。(宇多氏)

Q：現在設置されている離岸堤が、砂浜の回復を遅らせているということはないか。

A：離岸堤がない時よりも回復は遅れているが、道路などを守るためには必要。(宇多氏)

